

教育実践報告

公共選択学生の集い

奥井 克美 (経済学部経済学科)

奥井ゼミのゼミ生は、毎年、「公共選択学生の集い」という学生による報告・討論会に参加している。これは、十数大学の学生が与えられた共通のテーマについてプレゼンテーションし、討論会で議論を深める、というものである。通常二日間にわたって行われ、一日目にはプレゼンテーションのみを、各大学が順番に行っていく。各大学はこのプレゼンテーションの成果を競い、最も優秀なプレゼンテーションを行った大学には優勝の荣誉が与えられる。二日目には、分科会と呼ばれる対抗討論会を行う。参加している大学を二校ずつに分けて、その二校で議論をし、テーマについての意見交換を行うのである。もちろん、これらのプレゼンテーションや討論会のために、各大学は事前に論文をグループで作成してのぞむことになる。一日目のプレゼンテーション終了後には懇親会が開かれ、学生同士の交流がしやすくなるよう配慮されている。

2004年度は、11月6日(土)、7日(日)に千葉縣市川市の千葉商科大学において行われた。総参加人数は300人にのぼる、ということである。奥井ゼミから参加したのは、3年生2名、4年生3名、教員1名の計6名である。選抜チームをつくったのかと思われるかもしれないが、これでゼミ生すべてである。今年の研究テーマは「アジア経済に共通通貨は登場するか」であった。このテーマでの論文作成・パワーポイントによるプレゼンテーション・分科会討論となるのである。今年うちのゼミの分科会の相手は、埼玉大学西川ゼミナールであった。これらの作業を行うのは、基本的に3年生である。4年生には分科会の司会という大切な仕事がある。その他、3年生の監督・指導・応援・手伝いをしてもらった。参加大学の教員は、プレゼンテーション・討論会の審査や講評を行う。

私は、3年生のプレゼンテーションや討論会の様子を見ていない。審査の中立性等の理由により、自分の大学が活動を行っている部屋とは違う部屋の審査や講評にあたることが多いのだ。参加校が多いため、プレゼンテーションですら二室使ってやっている。4年生に立ち会ってもらった。4年生から感想を求めると、プレゼンテーションも討論会もまあまあやっていたのでは、というものが多かった。論文に関しては、出来がまだまだであると私は考えていたので、大阪に帰って加筆修正するよう命じている。しかしそれにしても、なんとエネルギーのいることだろう。このぐうたら私が「おきろ、遅刻するぞ」などとやっている。ちゃんと報告するだろうか、受け答えするだろうか、と気がかりになる。自分は子供を持ったことがないが、子供をお持ちの方はこのような感じなのだろうか。思うように動かない私に自分の両親がみせた、困ったなあという顔が頭によぎる。

4年生も全員参加してくれたが、行くまでは就職活動が続いていたので、無理はさせられないなと感じていた。直前になって一つ内定でました、という子が、自分が分科会の司会やりますよ、とこちらが言わないのに申し出てくれた。うれしかった。私と3年生は先に千葉入りして千葉商科大学の学寮に宿泊させていただいたが、4年生は予定を確定させることができなかったので市川市のビジネスホテルを使っており、千葉ではまだ4年生の顔を見ていない。プレゼンテーションの日の昼休み、別室にいる筈の4年生がこちらの部屋に来た。三人全員いる。うちのゼミの一大事とばかり、駆けつけてくれたのだ。でも3年生についての報告にしては早い登場だな、と思っていると、一人が「先生、決まりました」と言う。就職の報告に来てくれたのだ。するともう一人が言う。「今日、自分も内定通知が来ました」。今年度もいろいろな事があった。学会報告に初めて行ったドイツでは、かなり痛い目にあった。映画もいろいろ借りて見た。しかし、これほど泣ける瞬間はなかった。ここで涙はかっこわるい、と先輩の先生の声の方向にフェイクの首の傾きを入れ、顔を宙に浮かせた。

これだからゼミは最高だ。授業は全部大切だが、ゼミが間違いなく一番大切だ。ゼミだけは絶対妥協できない。というようなことをやっていると、ついにゼミ生が一学年で二人という事態になってしまった。二人というと、グループ作業の最少人数だ。これで一人になったら、いやゼロになったらどうなるのだろう。正直、追い込まれた。理想と現実の板挟みだ。3年生が4年生のために送別会を開いている姿を見ると、今年は理想の方をおしてよかったと思う。しかし、私がごとき力量の者が夢を見過ぎているのか、より冷静さをもってみていかねばならないかもしれない。

「公共選択学生の集い」に参加することによって、学生・教員ともに多くのことを学んだ。大学外のような人々の考え方に触れることができたし、それらの人々との交流や議論によって向上の機会を得た。学んだことを今後にかすべく、学生・教員ともにますます努力する所存である。今回は交通費・宿泊費・参加費を中心に助成いただいた。これによって、金銭面のことを気にせず、勉学面に集中することができた。深く感謝申し上げる。

次の「公共選択学生の集い」を追手門学院大学でやってもらえないだろうか、と言われた。4年生の就職がみな決まってすっかり上機嫌であった私は、この少ないゼミ生でどうしてお迎えするのか、ということまでは頭が回らなかった。受けてしまった。うちのゼミに応募してくる学生がゼロだったら、お受けできませんよ、とは言ったので、冷静さがゼロになっていたわけではなかったが。そういった次第で、ゼミ生がゼロでなかったら、来年度は本学で「公共選択学生の集い」を開きたいと考えている。今まで、様々な大学でうちのゼミ生がお世話になった。お返しする時が来たのだと思う。どこまでやれるかはわからないが、精一杯やりたいと思う。参加費もできるだけ安くしてあげたいし、費用負担感が大きくならないような懇親会も設定したい。引き続いての応援をお願い申し上げる次第である。